

### 1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2872000845		
法人名	医療法人社団 弘成会		
事業所名	ライフ明海 グループホーム		
所在地	明石市藤江205-3		
自己評価作成日	令和2年10月21日	評価結果市町村受理日	令和2年12月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>事業所南側は海に面しており、明石海峡大橋や淡路島がよく見え、夕方に沈む夕日は絶景である。母体が病院で医療連携がスムーズに行なえるため、利用者や家族等も安心している。少人数ではあるが、職員が工夫しながらレクリエーションを行い笑いと楽しみのある生活を送れるよう支援している。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/28/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2872000845-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/28/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2872000845-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 はりま総合福祉評価センター		
所在地	姫路市安田三丁目1番地 姫路市総合福祉会館内		
訪問調査日	令和2年11月12日		

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設20年目を迎える事業所は、道路に出ると瀬戸内海が一望でき、明石海峡大橋や淡路島がよく見える。目前には林崎松江海岸や松江海水浴場等の展望は素晴らしく、遊歩道での日々の散歩コースとなっている。隣接する同法人(弘成会)の「明海病院」をはじめ介護老人保健施設、通所リハビリテーション、訪問看護ステーション、ヘルパーステーション、在宅介護支援センター等があり、地域の福祉拠点となっている。特に重度化や看取り体制、医療連携では利用者・家族の安心と信頼が大きい。今年度は新型コロナウイルス感染症対策で、地域関係者や学校、幼稚園、ボランティア、家族との交流、また外出支援等で影響が出ているが、管理者や職員は目標を掲げて、利用者に寄り添った支援に努められている。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおお むね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームでの生活が利用者にとってより良い環境の中で支援を受けながら穏やかに過ごせるようにの思いに職員全員で取り組み、その目標を施設内に掲示している。	法人理念を基に、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所の方針に加え、「笑顔、やさしさ、思いやり」という支援目標を昨年作成され、掲示されている。その支援目標をもって穏やかに日々が過ごせるように職員全員で取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の中日常的な交流が出来ないが、隣の畑の方との会話やボランティアの方達からのDVDのお便りなどで限られた中での交流をしている。	新型コロナウイルスの感染拡大の影響から地域との交流はできていないが、地域ボランティアさんから送られてくるDVDなどを楽しみにされ、交流を継続されている。また、事業所前の畑で作業されている地域の方と声を掛け合うなど、交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度はコロナの感染防止のため、事業所の地域の人々に向けての貢献が全然できなかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染症対策のため開催できなかった。	新型コロナウイルスの感染拡大の影響から運営推進会議は開催できないが、今後は関係者、家族に対して現在の取り組み状況などを伝えたり、文章などで意見交換できるような工夫などを検討されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ感染症対策のため明石市介護サービス事業者連絡会の総会及び研修会、分科会も開催されなかった。	何かあれば市の担当者に連絡し、確認や意見を求められている。日頃からの協力関係を築く取り組みには至っていないが、連絡事項は、ファックスなどで市の方から送られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事故ヒヤリ委員会が月1回開催、年3回の院内研修に参加し、現状の課題に取り組んでいる。今年はコロナ感染症対策のため研修は見送りDVDやアンケート調査などで対応している。	法人の「事故ヒヤリ委員会」が身体拘束委員を兼ねており、グループホームの管理者が参加されている。毎月会議が行われ、研修はDVDを使って年に3回行われている。身体拘束マニュアルを作成され、玄関の施錠を含めて拘束をしない取り組みがなされている。	

自己	第3	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内での全体研修で高齢者虐待防止関連法について年3回の研修を受けている。今年度はコロナ感染症対策のため各フロアでDVDや資料での研修となりレポートを提出している。	法人全体研修で高齢者虐待防止関連法について年3回の研修が行われている。今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、DVDや資料での研修となりレポートを提出している。職員のストレスに対して半年に1回ストレスチェック表を活用し、把握する取り組みが行われている。また日頃からは、管理者が職員の様子を気配りし、声掛けなどが行われている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は制度について理解しており、冊子が詰所にある。必要時は活用できるようにしている。	成年後見制度を利用されている方は今は居られないが、パンフレットを玄関に設置し、必要な時に渡せるよう備えている。要望があれば説明は管理者が行い、関係機関へ繋げていく体制を整えている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に利用者本人・家族等に見学に来ていただき、質問などに対応している。入所後も不明な点や希望など随時説明を行なっている。	利用者・家族には、契約書や重要事項説明書、入居のご案内の冊子を新たに作られて、十分説明を行っている。見学などが新型コロナウイルス感染症のためにできないため、インターネットを活用し、タブレットで事業所内を見てもらい説明が行われている。現在、写真などで説明できるものを作成中であり、理解していただけるよう取り組まれている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	当面の間面会が出来ない状態ですが、来所時職員が家族等に近況を報告し、要望なども聞いている。電話での問い合わせなどにも対応している。	現在も新型コロナウイルス感染症のために面会ができない状況にあるため「和通信」などを新たに作成し、身体状況や介護の状態、計画状況、連絡などを家族に向けて毎月報告している。電話などで対応したり、家族からの要望などは、職員が聞き取り、申し送りやケース記録に書きこみ会議などで共有されている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りやミーティング、業務中などでの気付きや提案を聞き、職員全員で意見を出し合いケアに反映させている。	毎日の申し送りやミーティングなどで、職員の意見や提案を聞き取る機会としている。年に1回は看護部長から個別の職員面談が行われている。空気清浄機やパソコン、シールドなどの設置、消毒に関する薬品等の補充など、本部に要望した意見が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の配置と常勤の雇用に努め安定した勤務状況を保ちながら給与についても、介護職員処遇改善、特別加算も含めて水準の向上を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修受講の機会の確保は、人員の確保による職場環境からと心得、職員一人ひとりのケアの実際と力量を高めるため、内外の研修受講を進めている。		

自己 番号	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の中、密に注意しながらグループホーム、小規模多機能型居宅介護サービス部会を3ヶ月に1回開催して、情報交換の場として交流を深めている。		
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活環境に慣れるまで、不安な状態が続くため、本人の行動、表情に注意し、関わりを多く持ち安心して過ごせるよう思いに沿えるよう訴えにすぐ対応するよう支援している。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来所時に要望や希望、質問等を聞くようにしている。いつでも相談していただけるよう、話しやすい雰囲気作りを心がけている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の対応として、本人と家族が何を必要としているかを相談時に見極め、必要に応じて他のサービスの調整もしながら対応している。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	子供の頃の歌や遊びを教えてもらったり、手作業を手伝ってもらったりと本人が得意な事や好んでする事などを一緒にする事で持っている力を発揮でき自信に繋がるような支援を心がけている。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の思いを家族に伝えたり、家族からの思いを本人に伝えたりと職員がパイプ役となり、不安な事や希望が叶うようお互いの思いに沿えるような支援を行なっている。		
20 (11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会禁止が続いているため特定の家族しか来所できないが、以前は、隣人、知人、同僚など定期的に面会に来られていた。話もはずみ楽しい時間を過ごす事ができていた。	馴染みの関係継続などは、現在少なくなっている。以前は馴染みの場所へ外出したり、近隣の方や知人の方などが来られていたが、現在は、電話などを活用して関係性が途切れてしまわないよう支援している。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	楽しく会話ができるように相性の良い人を隣席にしたり、一緒に手作業をしたり、テレビを観たり、孤立しないように気配りしている。		
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了時、サマリーを担当者に渡している。今後の注意点なども申し送り、必要に応じて相談等も受けている。		
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その時、対応した職員によって訴えている内容が変化する場合があるが、その都度出来る事から家族等と協力し合って思いに沿えるよう努めている。	以前は把握が困難な方が多く、利用者の状態に応じた問いかけの仕方を工夫していた。利用者一人ひとりの様子を見てこちらからの声掛けなどを細やかにし、その時の利用者の意向に沿うよう支援している。対応したこと、気付いたことなどを記録に残し、その後どうなったかを職員間で情報共有している。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話や家族等からの聞き取りも含め、どのような生活をして来たか経過の様子を把握し、その人らしい生活の継続を支援している。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの出来る事、出来るであろう事の把握に努め有する力を発揮できるよう職員は日々様子観察し体調等に合わせた支援を個別に行い、その状態を職員全員が共有し対応している。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人のADLや体力の低下に伴い、家族からの要望や意見等を聞き、必要な関係者と相談し合ってより良いケアに繋がるよう介護計画を作成している。	利用者を担当する職員を3か月サイクルで交代し、身体状況や生活の様子を、担当職員やリハビリ職員、管理者などで話し合い、家族や利用者の意向を反映し、介護計画を作成している。毎月行うモニタリングで、見直しが行われている。	趣味や生活歴からのやりたいことなど、利用者一人ひとりの意向の把握から生活に生きがいをもって支援されていることも介護計画に入れて支援してほしい。
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中で、今まで話の中に出てこなかった事や、いつもと違う言動や動作を行っていた時は、職員全体で情報を共有し、カルテにも記入、個別ケアの実践に活かしている。		

自己 番号	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の思いや、その時々生まれるニーズに対応できるような心がけている。法人内で連携できるよう柔軟な対応に努めている。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍前までは各種実習生の受入れ、ボランティアグループの来所など色々な人との交流ができ楽しんでいたが、現在フロア内での少人数でのレクリエーションだけになってしまっている。		
30 (14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診を希望される場合は家族と一緒にってもらい、その都度様子を報告してもらっている。ほとんどの利用者の方が母体の病院で診察を受けている。	往診や訪問看護、夜間なども協力医に来てもらえる体制が整っている。以前からのかかりつけ医を希望される場合には家族の協力を得て受診が行われている。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活の中での体調不良等は訪問看護師に相談し病院受診の有無を指示してもらっている。夜間帯や病院休診日等は老健の看護師に連絡し様子を見てもらっている。		
32 (15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人内の地域包括医療・ケア連携室を通して病院へ入院、退院の情報提供、相談などを行っている。入院時はサマリーを渡し、入所の様子や介護情報を伝えている。	法人内の協力病院で、ほとんどの方が入院されており、地域包括医療・ケア連携室を通じて入院、退院が行われている。入院時には、サマリーを提出し、入居時の生活の様子や情報を提供している。日頃から医療との連携が密に行われており、情報交換や相談が行える関係が構築されている。	
33 (16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時十分な説明を行っているが、利用者の状態に合わせて医師より再度方針の確認があり利用者や家族と話し合い思いに沿った支援を行うように取り組んでいる。	入居時に「看取りに関する指針」を书面化したものを活用し、同意を得て、重度化した場合にできることなどを説明されている。重度化した場合には、家族と医師とで話し合われ、意向に沿うようにしている。職員の看取り研修なども行っている。看取り経験は以前にあり、家族や医師の協力を得ながら、職員全員で取り組まれていた。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内研修でCPRトレーニングやDVDを使用したり、急変や事故発生時に備えてマニュアルに沿った対応をしている。		

自己 番号	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35 (17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回法人全体で消防訓練、避難訓練を夜間を想定して行っている。食料、飲料水など準備している。	年2回法人全体で消防訓練、避難訓練を昼・夜間を想定して行っている。年1回はグループホームの利用者と一緒に玄関前まで出るなどの避難訓練をしている。法人本部で食料、飲料水などの備蓄を準備され、防災マニュアルや連絡網を整備されている。指定避難場所は遠いため、法人同敷地内にある介護老人保健施設への避難を想定されている。	職員の安否確認の方法や火災以外の訓練、通報訓練など、今後はどうにしていくかを、法人本部と共に検討してほしい。
36 (18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格や日常生活のリズムに合わせて、声をかけるタイミングを図り、その人に合った支援を行っている。入浴介助や排泄介助等もマニュアルがあり、プライバシーに配慮した対応を心掛けている。	介護マニュアルに、プライバシーに配慮する目標を掲げて支援が行われている。接遇委員会の月目標として、言葉遣いについて掲示し、人格を尊重する対応や言葉かけなどに日々気をつけるように取り組まれている。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	主体は利用者なので自己決定の場面ではゆっくり判断を待つようにしている。思いがうまく表出できない人もいるので表情や動作などから推測して支援に努めている。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の体調に合わせて、レクリエーションなど参加の声かけを行ったり、お天気の良い日は庭に出たり、海まで散歩に行ったり希望に沿った支援をしている。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装を本人と一緒に選んでいる。散髪は隣接の老健に予約を行なっている。		
40 (19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好物や、昔よく食べた物、季節や行事に合せた献立を作っている。テーブル拭きや、食器拭きを手伝ってもらっている。	食事の準備は、朝食、夕食については、隣接の介護老人保健施設厨房より届けられている。昼食については、職員が交代で季節や行事等に合わせた献立を考え事業所の台所で調理されている。利用者のリクエストや家庭菜園で収穫した野菜等も献立に取り入れている。おやつ作りも月1度程度は取り組んでいる。利用者の状態で調理等はできないが、テーブル拭きや食器洗い等のできることを手伝ってもらう。職員も利用者と同じ食事を会話や介助をしながら楽しんでいる。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量のチェックをしている。特に水分量には注意し、小まめに摂取してもらっている。食べる力に合せた形状で提供している。		

自己 番号	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがいや歯磨き、義歯洗浄を習慣として行っている人以外は、職員がその人に合せた、声かけ、見守り、一部介助を行い、清潔保持に努めている。		
43 (20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターンを把握し、日中はトイレでの排泄介助、夜間は居室でポータブルトイレでの排泄介助を行っている。ナースコールでの対応の他定期的な声掛けを行い汚染の軽減を心がけている。	排泄の自立度では、布パンツで自立できている方が2名、多くはリハビリパンツでパットを使用する方であるが、夜間のみおむつを使用する方が2名おられる。一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握してトイレでの排泄支援に努められている。夜間のみポータブルトイレを使用する方が4名おられナースコールでの対応も行っている。共用トイレは2か所あり車いす対応ができる。プライバシー配慮では誘導時の声掛けに注意している。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便チェックを行なっている。排泄の状況に合わせて緩下剤の調整を行い、ヨーグルトや繊維質の多い食品なども食事に取り入れたり、体を動かす体操やストレッチに参加してもらったりと、個別に対応している。		
45 (21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は曜日を決めて覚えてもらえるようにしている。体調やその日の予定に合わせて順番に入浴してもらっているが、シャワー浴、足浴、手浴、全身清拭など、個々に合せた支援をしている。	入浴の基本は週2回、午後からとしているが、体調や希望に応じて、シャワー浴、足浴、清拭等も柔軟に対応している。浴槽は一般浴で個々に入浴支援している。現在は入浴拒否の利用者はいない。入浴を楽しんでもらう取り組みとして、季節湯(柚子湯等)や入浴剤、お茶の葉の活用もしている。プライバシー配慮では、職員も利用者も全員女性なので同性介助ができている。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	タイムスケジュールはあるが、本人の体調に合わせてゆっくり居室で過ごしてもらったりしている。疲れた時は日中でも横になってもらったり思いに沿った支援をしている。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	母体病院に定期的に受診し薬を処方してもらっている。説明書に効果や副作用など詳しく記入してあるので職員は薬について理解している。誤薬をしないよう名前を読み上げて渡している。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員に「何か手伝う事はない？」といつも言うてくださる方をお願いすると「はい、しましょう」と快く引き受けて下さる方などに、タオル巻き、洗濯物をたたむ、ゴミ箱折り、テーブル拭き、食品拭きなどお願いしている。懐かしいビデオを見たり、外への散歩も支援している。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍なので自由に戸外に出掛けられないが、中庭に出たり、隣の畑のコスモスを頂いたり、海までの散歩に行ったりして気分転換を行っている。	今まで取り組んできた外出支援では、地域行事(祭り等)や月1回の「お買い物ツアー」、家族との外出、法人の「めいかい祭り」への参加等が、新型コロナウイルス感染症対策で支援が出来ていない。日常的な外出支援として、中庭に出てミニ菜園を鑑賞したり、隣接の畑のコスモスや作物を見て季節を感じてもらおう。事業所前に広がる瀬戸内海に浮かぶ淡路島が一望でき、林崎松江海岸や松江海水浴場等の展望は素晴らしく、遊歩道での日々の散歩は継続支援できている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこづかい程度に所持されている方は、老健の売店で必要な物を購入されている。詰所で預かっているお金で日用品を購入する際のお手伝いもしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を使用できる人は家族の希望で持っておられ、日常的に連絡しておられる。手紙も書いたので出して欲しいと希望されれば、職員がポストに投函している。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にはイスを置き外を眺められ通用口には暖簾をかけたり花を活けたり生活感を出している。廊下の窓からは季節の花も夕日などが見え心が和む情景を眺める事ができる。	玄関を入ると事業所目標「えがお、やさしさ、おもいやり」の手書きの立派な習字が掲げられている。食堂とダイニングが別に配置されておりスペースもゆったりしている。ダイニングには利用者ごとのレクリエーション備品置き場もある。テレビやカラオケ装置もあり手作り作品も展示されている。共用空間は居心地よく過ごせるように、室温管理や清潔感のある環境維持がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニングは常に開放しており、一緒にテレビを観たり、会話を楽しんだり、思い思いに過ごしてもらっている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた物、見慣れた物など持参されている。家族の写真やカレンダー、時計など見える所にある事で安心されている。	居室の設えは、ベッド・冷暖房機・椅子・チェスト・テーブル・広いクローゼット・洗面台・カーテン・ナースコール等が備えられている。居室タイプは洋室でフローリングとなっている。窓は腰高であるが明るい日差しが入る。テレビや時計・写真・カレンダー・お気に入りの小物等も置かれている。入り口には手作りの「貼り絵」が掛けられ利用者の表札となっている。居室は清潔に維持管理され居心地よく過ごせる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの持っている力を把握し、個々の出来る事を活かせる支援を心がけている。		